

行政視察報告書 (会派名 自民党議員団清和会)

* 報告者 市川 慎二

会派代表者名・ 早坂 貴敏

* 視察研修参加議員名

伊藤雅暢、早坂貴敏、市川慎二、長谷文子、石井美季
計 5 名

* 視察研修日程

令和元年 10月 28日 (月) ~ 10月 30日 (水) の 2泊 3日

* 視察研修項目

10月 28日 (月) 神奈川県横須賀市 (横須賀市役所)
(議会基本条例等について)

10月 29日 (火) 神奈川県茅ヶ崎市 (茅ヶ崎市役所)
(PFI 柳島スポーツ公園について)

10月 30日 (水) 神奈川県大和市 (大和市役所)
(健康都市やまとの取組みについて)

視察研修先・神奈川県横須賀市

視察研修項目・議会改革の取り組みについて（議会基本条例・議会 BCP 等）

報告者・伊藤 雅暢

議員個々の考察と見解

1.視察のねらい

恵庭市議会では、特に2年前より議会改革に取り組んでおりますが、更に今後、議会 BCP 化、議会基本条例の制定も視野に進めて行かなければならないところです。この度は、早くから議会改革について実績のある横須賀市の取り組みについての、研修となりました。

2.横須賀市の概要

横須賀市は、人口約 394,000 人で古くは 1853 年にペリーが来航した歴史のある街である。特徴として、市域の 6.2%を在日米軍や自衛隊関連施設が占めるなど、戦前から軍港として栄えてきました。また、行政区域内にある猿島は、近年アニメの舞台となるなど、首都圏から 1 時間の距離ということもあり、観光施設整備とともに、観光振興に力を入れております。

3.取り組みの概要

(1)議会 ICT

議会の ICT 化ではありますが、インターネット中継は本会議・常任委員会に限らず、議会運営委員会中継を行い、それぞれに効果が生まれているとのことでもあります。又、全議員にノートパソコンを貸与し、議会の LAN 整備や議会中継をスマートフォンでも視聴ができ、市民への情報発信の拡充が図られたとのことです。

(2)議会基本条例

条例に基づく主な取り組みでは、通年議会の導入、又、政策提言機能の強化を図るため、議会政策検討会議を設置し、政策形成能力の向上に努めています。市民と議会との関係では、議会が有している情報を市民に公開し、説明責任を果たすとともに、市民の意見・要望を広く聴き、議会内での議論、政策形成に反映させるため「議会報告会及び市民との懇談会」を開催しております。

4.所感

本市に於いても、今後議会基本条例の制定を視野に、この 2 年間で計画的と継続性を踏まえ、取り組むことが重要であるとともに、開かれたわかりやすい議会、より一層市民に寄り添った議会を目指し、取り組んで行かなければならないと思うところでもあります。

視察研修先・神奈川県茅ヶ崎市

視察研修項目・PFI 事業（柳島スポーツ公園整備事業）について

報告者・伊藤 雅暢

＊議員個々の考察と見解＊

1. 視察のねらい

H29 年に都市公園法が改正され、都市公園における民間資金の活用が可能となりました。これらを踏まえ、本市の公園利用においても民間活力の導入は有意義と考え、H30 年に都市公園を開園した、茅ヶ崎市のスポーツ公園の実施状況について研修することにした。

2. 事業取り組みの背景

茅ヶ崎市では、以前から「相模川河畔スポーツ公園」を「柳島スポーツ公園」へ移転・整備する計画があり、整備に当たっては民間のノウハウを活用して「柳島スポーツ公園 PFI 事業」として、H25 年 12 月から着手し H30 年にオープンしました。又、神奈川県内での PFI 導入事業実績は 38 件（H28 年 11 月現在）と、他県と比較すると成功事例が多く、県内の比較的規模の小さな町でも取り組み実績があるとのことでありました。

3. 茅ヶ崎市の取り組みの概要

H26 年 9 月に地元企業を代表としたグループが落札。H26 年 12 月議会議決を経て、市と「茅ヶ崎スマートウエルネスパーク K.K」との間で事業契約を締結。契約金額；約 74 億 8,500 万円で、事業期間全体を通じた財政負担の削減額は 3 億 800 万円とのことでありました。施設面積は約 6.5ha で、メインスタンド棟、クラブハウス棟、競技運営棟、テニスコート、ジョギングコース、多目的広場、駐車場があり、市民の誰もが身近にスポーツを楽しむことができる公園を目指すことを掲げ、「地域の人々のニーズで地域の為に作り上げる公園づくり」に取り組んでいきたいという熱意が感じられました。

4. 事業の目的

「スポーツを通じて茅ヶ崎市民の健康増進を担う」という理念を掲げ、

- ①「きっかけをつくる」「気軽に楽しく集う（多世代の交流）」
- ②「食から取り組む（食の情報交換・啓発の場の設置）」
- ③「茅ヶ崎の観光交流につなげる（新たな茅ヶ崎レジャー拠点として地域文化を発信）」
- ④「ローカルファーストを推進する（地域に根ざしたレジャー・スポーツ施設の創造）」

などの活動を地元企業が主体となり、新しい公民連携の形を目指すとのことでありました。

5. 所感

各地で運動関連施設の老朽化に伴い、使いやすく利用者が増える施設の整備のために、民間のノウハウを生かした施設整備が進められ、心と体の健康により、まちの課題解決に寄与しております。特に、「地域主導 PFI 事業」については、取り入れるべき点が多く、今回の視察を本市のまちづくりにも生かして行きたいと思っております。

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・「健康都市やまと」の取り組みについて
報告者・伊藤 雅暢
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>1.視察のねらい</p> <p>高齢化が進む中、健康寿命を延ばし高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりへの取り組みが進められおります。特に、大和市では、市民の意識改革が大切であることから、2018年4月には「70歳代を高齢者と言わない都市」宣言をし、「人」「まち」「社会」の3つが健康であれば理想的な都市になるとの考えから、様々な事業に取り組んでいることからの研修となりました。</p> <p>2.大和市の概要</p> <p>大和市は都心から約40km圏内、神奈川県中央に位置する人口約236,000人(微増傾向)、のまちで、市内には、私鉄3路線8駅、東名高速道路、国道16号・246号があり、コミュニティバスが市内くまなく運航しているため、交通の便が良く、心豊かで住みやすいまちであります。</p> <p>3.「健康都市やまと総合計画」の主な事業について、</p> <p>①子どもを生き育てやすい環境づくり</p> <p>不妊治療費や妊婦健康診査費助成、さらに、第3子以降の出産費助成など、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援により、保育所等・学童クラブ待機児童0を4年続けて達成し、合計特殊出生率は5年間の平均県内第1位であります。</p> <p>②学校図書館の取り組み</p> <p>生きていくためには智恵が必要で、智恵をつけるためには読書が重要との考えから、学校図書館整備に取り組んでいる。</p> <p>③いつまでも健康に過ごす取り組み</p> <p>健康づくり推進課に「歩こう担当」設置、歩くことを通した健康づくりを推進するとともに、低栄養予防に着目し、低栄養と診断されたが関心のない人の個別訪問に取り組んでいます。国民一人当たりの医療費5年間の平均は県内19市中で最少額である。</p> <p>④高齢者が安心して暮らせるまちづくり</p> <p>一人暮らしにスポットを当てた施策の充実を図っている。特に、徘徊高齢者個人賠償責任保険事業、徘徊高齢者等位置確認支援事業、ひとり暮らしの見守りシステムの提供、地域住民の居場所づくり、ご遺族の各種手続きの支援窓口の設置などを積極的に取り組んでおります。</p> <p>4.所感</p> <p>恵庭市でも健康寿命の延伸と生涯現役意識高まりの対応をしていかなければならないと思います。子育て関連と、一人暮らしに特化した高齢者施策については、互いにサポートしながら社会生活ができる街を目指し、取り組んで行けるよう尽力して参ります。</p>

視察研修先・神奈川県横須賀市
視察研修項目・議会改革の取り組みについて
報告者・早坂 貴敏
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>■視察に至る背景</p> <p>恵庭市議会では、これまで議会改革推進協議会を設置し、各派の合意形成を図りながら議員の資質向上や議会活動の発信に関わる取り組みを個別に進めてきました。その中で、議会改革の考え方、理念として位置づけられる「基本条例」の制定に向けた策定チームが設置されております。</p> <p>■視察の目的</p> <p>神奈川県横須賀市の議会基本条例策定に至る経緯や目的、運用状況を学ぶことで、議会基本条例の策定に繋げる事を目的とします。</p> <p>■主な内容</p> <p>1. 議会基本条例について</p> <p>○条例制定の経過</p> <p>制定の趣旨は、今後も市民に開かれる議会と政策立案、能力の向上を目指して策定。平成20年に議会運営委員会での視察を契機に条例制定の機運が高まった。平成21年に検討委員会を設置し、専門家を招いて議論。パブリックコメントでは定数減や反問権など市民から意見徴収しながら進める。会派間の意見調整に苦労したが、平成22年6月定例会で全会一致を見た。</p> <p>○主な取り組み</p> <p>一問一答制、議会報告会の運用</p> <p>議会報告会の視察や試行実施など慎重に進めた。</p> <p>議会報告会はテーマに沿って年二回。</p> <p>議会改革の検討会議を設置し、継続的に進めるための常設型の議会制度検討会。通年議会の導入をすすめている。</p> <p>本会議は市長が答弁するような政策議論とし、委員会は個別案件について議論するという位置づけを図る。</p>

2. ICT化基本計画の策定

○ICT化基本計画を策定

本会議や常任委員会に限らず、議会運営委員会の中継を行うことで市民、議会、市長部局がそれぞれの効果を生んでいる。

全議員にノートパソコンの貸与し、議員メールの公開、議会のLAN整備や本会議、委員会のインターネット中継を行う。(平成27から議会中継をスマートフォンでも視聴対応)

委員会中継の経費としては、イニシャル1,400万円、ランニング400万円。

各委員会も含めて資料配布を制限するなどペーパーレス化を推進している。

資料については、グループウェアなど活用。

3. 議会BCPについて

○災害時の対応について

平成28年の熊本地震を契機にBCPの必要性について議長提案。

同年5月にあり方検討会を設置。

BCPの発動基準として6弱以上、大雨などの大規模災害など。

市議会の災害対策会議を設置し、市の対策本部と連携。

議員の役割を明確にし、年に一度、災害対策会会議の訓練を実施。

LINEworksの導入。(※自治体版ライン)

■所見

神奈川県横須賀市議会で行われている議会改革の取り組みについて視察して参りました。議会基本条例については、専門家や市民意見を踏まえた上で策定作業を進めるなどきめ細やかに進めてきたことが伺えました。反問権については答弁側からの確認程度としているものの、今後については本格的に実施される予定という事で、成果を伺える段階ではありませんでしたが、今後の進捗や実施後の検証結果について大変興味深いものだと思います。

議会BCPについては、市の災害対策本部と有機的な連携を目指し、災害対策訓練の実施やLINEworksの導入など先進的に行われており、現在本市議会でも議論の進められる議会BCP策定に活かしていきたいと思います。

視察研修先・神奈川県茅ヶ崎市
視察研修項目・P a r k－P F Iについて
報告者・早坂 貴敏
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>■視察に至る背景 国の都市公園法改正に伴い、恵庭市では、現在民間活力を活かした都市公園の整備、賑わいづくりを目指した施策の検討を進めています。</p> <p>■視察の目的 神奈川県茅ヶ崎市で行われている民間活力を導入したスポーツ施設整備の経緯や目的、事業手法を学ぶことで、本市における今後の都市公園づくりに活かす事を目的とします。</p> <p>■主な内容</p> <p>※P a r k－P F Iとは 平成29年の都市公園法改正により新たに設けられた、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。</p> <p>○柳島スポーツ公園整備事業 H26から令和20年の20年間のP F I事業として計画実施。 市長の掲げる総合計画の中で、新しい公共の形成、限られた行政財産を民間のノウハウを取り入れて進めていく。</p> <p>○D B O方式の活用 事業手法としては、市議会での議論を経て事業実施。 設計、維持管理を一括発注するというP F Iとは違った形を取り入れる。</p> <p>○市民意見の集約 基本構想の段階でパブリックコメントを実施するとともに、スポーツ公園整備の検討委員会で意見聴取した。</p>

○多様なプログラムの提供

サッカー・テニスを中心に、幼児から高齢者まで初心者から世界で活躍するアスリートまで幅広く育成してきた湘南ベルマーレスポーツクラブとパームインターナショナル湘南のノウハウを活かし、細心の論理だけでなくスポーツの魅力や楽しさを体感できる様々な教室が行われている。

○クラブハウス運営のコンセプト

公園管理機能やスポーツ施設というだけでなく、多くの人々が賑わい、人々の憩いと新しい仲間づくりなど多様な可能性を引き出す「まちの拠点」づくりを目指している。

○有事の際の地域防災の拠点として

大規模災害時の指定緊急避難場所として使用。

総合競技場のフィールドは災害時のヘリポートとしても活用することが出来、クラブハウス棟の二階デッキとメインスタンド棟の最上部は、津波発生時の公園利用者の一時的避難が可能な高さを確保している。また、防災倉庫の設置や自家発電、マンホールトイレを設置し、公園証明はソーラー付を適所に設置することで夜間における避難時の対応にも活かすことが出来る。

■所見

神奈川県茅ヶ崎市の柳島スポーツ公園整備事業について視察して参りました。茅ヶ崎市でも初めてとなるPFI事業を採用し、地元企業を中心に構成された特別目的会社と契約締結を行い、スポーツを通じて健康づくりや賑わい創出といった「まちの拠点」としての取り組みが行われていました。

幅広い世代の活用を目指すということで、スポーツを始めるきっかけづくりや気軽に楽しめるコミュニティの醸成、食に関する情報交換、啓発の場などその機会は多岐にわたっています。また、地域主導型PFI事業を実践することで、地域に根差した愛される施設づくりや観光・交流に繋げることで賑わい創出にも寄与している事が伺えました。

恵庭市においても現在、Park-PFIが検討されていますが、施設整備における明確なビジョンづくりと、地元をはじめ市民の主体的なかわりから賑わい創出に繋げることが極めて重要だと思います。これからの議論にしっかりと活かしていきたいと思います。

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・「健康都市やまと」の取り組みについて
報告者・早坂 貴敏
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>■視察に至る背景</p> <p>高齢化社会が急速的に広がると共に、医療費の増加が避けられない現状の中、若者から高齢者まで多世代が生き生きと健康で元気に過ごせるような環境整備が多くの市民から求められています。</p> <p>■視察の目的</p> <p>神奈川県大和市では、2009年に「健康都市やまと」宣言のもと、「人の健康、まちの健康、社会の健康」という三つの柱を軸に約1000の事業を展開しています。これらの先進的な取り組みを調査研究し、本市の保健福祉行政の発展につなげる事を視察目的とします。</p> <p>■主な内容</p> <p>○子供を産み育てやすい環境づくり</p> <p>保育所等入所待機児童ゼロを四年連続達成。</p> <p>「赤ちゃんまもるくん」事業を導入し、お母さん単身で赤ちゃんと住んでいる世帯については、事前登録されているお母さんに毎日メール配信をし、二日以上既読がつかない場合は安否確認をしている。また、無呼吸アラームを保育施設に配布し、保護者が安心して子供を預けられる仕組みを作っている。</p> <p>○学校における取組</p> <p>第三子以降の給食費の助成。</p> <p>朝読書の取り組みや小学校5、6年生と中学校の全教室に新聞を配架。</p> <p>○学校図書館の取り組み</p> <p>知識を養うには読書が最も適しているのではないかという考えのもと、学校図書館のリニューアルや各校に司書を配置するなど取り組んでいる。</p> <p>○いつまでも健康に過ごす</p> <p>「ヤマトン健康ポイント」を発行し、ポイント対象事業に参加することで20ポイント貯めると抽選で景品をプレゼント。</p> <p>○市立病院の機能強化</p> <p>医師や産科医、小児科医を増員し、病院の機能強化に努める。</p>

○「70歳を高齢者と言わない都市 やまと」宣言

認知症1万人時代に備え、生涯現役意識を養う効果を期待している。

「はいかい高齢者個人賠償責任支援事業」によって徘徊の恐れがある高齢者を被保険者とし、第三者に損害を与えてしまった場合の補償や、「はいかい高齢者等位置確認支援事業」により、GPS収納シューズの利用支援を行う。

○防犯機能の強化

街頭防犯カメラの設置率は県内1位

○交通環境整備

コミュニティバスの充足率県内1位

自転車走行空間の整備として、市道の整備可能箇所については整備率100%

シルバードライブチェックを実施し、ドライブレコーダーの貸与及び交通安全専門員による運転アドバイスを行っている。

○多様な公園整備

公園に健康遊具を設置している。

ボール遊びができる公園を設置し、2013年当時はゼロ箇所だったのが、2017年までに36箇所に拡大した。

○様々な福祉のまちづくりが評価され、WHOから唯一招待を受けて中国上海で行われた国際会議において発表を行った。

○市の高齢化率と介護認定率について

高齢化率 H30年現在で23.9%、介護認定率16.7%

■所見

神奈川大和市の健康施策について視察して参りました。市長のマニフェストに掲げ、健康都市宣言や総合計画の中心に据えられる姿勢はとりわけ本気度が伺え、福祉のまちとしての先進的な特徴を目にすることが出来ました。

特に「70歳を高齢者と言わない都市宣言」については、高齢化社会の先を読み、生涯現役として元気に過ごすことの出来る一体的な環境整備が、健康寿命の延伸だけでなくまちの活力につながっていることを学びました。待ったなしの超高齢化社会に向けて大変参考になる視察となりました。

視察研修先・神奈川県横須賀市
視察研修項目・議会改革の取り組みについて
報告者・市川愼二
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>横須賀市</p> <p>人口 394,060 人 世帯数 167,028 世帯 面積 100,82 km²</p> <p>議会議員定数 40 人</p> <p>横須賀市議会では、平成21年に議会基本条例検討委員会を設置し、専門家を数回にわたり招き、議論を重ねその後も市民からの意見聴取、パブリックコメントなどにより幅広く進め、会派内の調整には苦労があったものの、全会一致で市議会基本条例が制定されました。条例では、更に市民に開かれ、信頼される議会を創造し、積極的な政策立案・政策提言を行なうことができ、形成能力の向上を図ることが使命であるとともに、各自が議員としての自覚と見識を持って、市民の負託に応える決意を示しております。</p> <p>条例に基づく主な取り組みとしては、通年議会の導入（会期1年間）、又、政策提言機能の強化を図るため、議会政策検討会議を設置し、政策形成能力の向上に努めています。市民と議会との関係では、議会が有している情報を市民に公開し、説明責任を果たすとともに、市民の意見・要望を広く聴き、議会内での議論、政策形成に反映させるため「議会報告会及び市民との懇談会」を開催をしております。</p> <p>次に、議会の ICT 化であります。インターネット中継は本会議・常任委員会に限らず、議会運営委員会中継を行い、それぞれに効果が生まれているとのことであります。又、全議員にノートパソコンを貸与し、議員メールアドレスの公開、議会の LAN 整備や議会中継をスマートフォンでも視聴ができ、市民への情報発信の拡充が図られました。</p> <p>委員会中継に要する経費として、初期構築で1417万円、運用経費年389万円となるが、事務の合理化・効率化とともに、議会内のもう一步踏み込んだ、ペーパーレス化に向け、取り組んでおります。</p> <p>この度の、横須賀市議会での議会改革の取り組みでは、特に、議会基本条例を制定しても、それが文章だけの存在となってしまうところではいけないと思っております。</p> <p>様々な活動を実践し、これまでの取り組みに対する評価や課題、今後の取り組みの方向性について検証し、市民とともに取り組んでいるとの、姿勢が見受けられました。</p> <p>本市に於いても、今後、議会基本条例の制定を視野に、任期4年間で計画的と継続性を踏まえ、取り組むことが重要であるとともに、開かれたわかりやすい議会、より一層市民に寄り添った議会を目指し、議員として取り組んで行かなければならないと決意を新たにいたしました。</p>

視察研修先・神奈川県茅ヶ崎市
視察研修項目・PFI 事業（柳島スポーツ公園整備事業）について
報告者・市川慎二
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>神奈川県茅ヶ崎市</p> <p>人口 241,945 人 世帯数 102,658 世帯</p> <p>面積 35,76 km² 議員定数 28 人</p> <p>従来、都市公園は、維持管理費用のみが発生する「コストセンター」として位置づけられる事が多かった。しかしながら、最近では、公園内でカフェ、レストラン、コンビニエンスストアなどの民間施設の設置・営業を認めて、民間事業者に使用料を払ってもらったり、公園改修費用を負担してもらったりする「パークマネジメント」が広がりをみせている。この様な中、茅ヶ崎市では柳島スポーツ公園を平成30年度に都市公園として開園しました。</p> <p>茅ヶ崎市としては、初めてとなる PFI 事業を採用し、地元企業を中心に構成された特別目的会社「茅ヶ崎スマートウエルネスパーク株式会社」と契約を締結し、事業を進めました。PFI 事業は、設計、建設、運営、維持管理まで一体的に行うことができるのがメリットであります。契約は、平成30年度より20年間の維持管理・運営を含んだ期間で、事業方式は「BTO」で建物完成後、所有権が市に移るとのことです。</p> <p>契約金額は、75 億円のうち設計、建設、工事監理費用が50億円、維持管理、運営に関する費用が25億円となり、65%相当分を建設期間中に支払い、残り35%を20年間の割賦であります。</p> <p>施設の概要は、陸上競技場、テニスコート、メインスタンド棟、クラブハウス棟競技運営棟、広場、ジョッキングコース、駐車場等であります。</p> <p>市民の誰もが身近にスポーツに楽しむことができるスポーツ公園を目指すことを掲げ、「地域の人のニーズで地域のために作り上げる公園づくり」に取り組んでいきたいとのことであります。</p> <p>又、1,きっかけをつくる 2,気軽に楽しく集う 3,食から取り組む 4,観光交流につなげる 5,ローカルファーストを推進等の活動を理念に、地元企業が主体となり新しい公民連携のかたちを、目指すとのことであります。</p> <p>この度の、PFI によるスポーツ公園整備では、利用者ファーストに配慮した施設、気候風土に配慮した公園らしい緑、周辺環境への気遣い、そして地域の防災拠点としての機能により、心と体とまちを元気にする、事業になったのではないかと思うところです。今後、本市の公共施設管理計画等を進めていく中では、今回の視察での「地域主導 PFI 事業」を参考にし、取り組んでいく事が、必要と思うところであります。</p>

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・「健康都市やまと」の取り組みについて
報告者・市川愼二
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>神奈川県大和市</p> <p>人口 236,078 人 世帯数 107,200 世帯 面積 27,09 km² 議員定数 28 人</p> <p>私鉄3社が乗り入れし、市内に8つの駅があり、ほとんどが駅まで15分以内の徒歩圏内で、交通の利便性が良い環境であります。</p> <p>大和市は、「健康都市やまと」を宣言するとともに、第8次大和市総合計画を策定しました。この計画は、「人の健康」「まちの健康」「社会の健康」の3つの健康づくりを推進することにより、大和市そのものを、健康にしていくため指針としたものです。</p> <p>始めに、健康づくり推進課に歩こう担当を新設し、4～7人のチーム対抗で1か月に歩いた歩数を競うウォーキンピックの開催、ヤマトン健康ポイント事業、保健師・管理栄養士のチームで個別訪問活動・低栄養予防に応じた指導を実施したことにより、国民健康保険一人あたりの医療費は、5年間の平均で県内19市中最小額となっております。</p> <p>「人生100年時代」を迎える超高齢社会では、65歳以上を高齢者とする固定概念を変えていくことが必要です。年齢を重ねても、健康を維持し、自立した生活を送れるよう努めている方、豊かな知識と経験を生かし、役割を果たしている方など、一人ひとりがかけがえのない存在です。支えを必要とする方には手を差し伸べながら、個々の意欲や能力に応じて、いつまでも生き生きと活躍して頂きたいと考え、大和市は「70歳代を高齢者と言わない」ことを宣言し、この世代の様々な方に対し、ポジティブなメッセージをすることで健康寿命の延伸と生涯現役意識の高まりを更に深めて行きたいとのことであります。</p> <p>今後、認知症の方が全国的に増える中、あらゆる世代、立場の人が協力しあい、認知症の人への理解を深め、その思いに寄り添っていくことが大切です。</p> <p>住み慣れた地域で、人と人とのつながりを育みながら、様々な取り組みを進めていくことが重要です。</p> <p>大和市では、高齢の方が安心して暮らせる対策として、徘徊高齢者個人賠償責任保険事業、徘徊高齢者等位置確認支援事業、ひとり暮らしの見守りシステムの提供、地域住民の居場所づくり（ぷらっと高座渋谷の設置）ご遺族の各種手続き支援窓口などを積極的に取り組んでおります。</p> <p>本市でも、健康寿命の延伸と生涯現役意識の高まりの対応をして行かなければならないと思います。又、それぞれが得意な事を活かしたり、苦手なことをカバーしたり、互いにサポートしながら社会生活ができる街を目指し、取り組んでいくことが必要と思います。</p>

視察研修先・神奈川県横須賀市

視察研修項目・議会 ICT・議会 BCP（事業継続計画）・議会基本条例について

報告者・長谷 文子

議員個々の考察と見解

1.視察のねらい

恵庭市議会では議会改革に取り組んでおり、今後、議会の ICT 化や議会 BCP 化、さらに、議会基本条例の制定も視野に入れているところです。この度は、早くから議会改革について実績のある横須賀市の取り組みについて研修することにした。

2.横須賀市の概要

横須賀市は、市政施行が明治 40（1907）年 2 月 15 日、人口約 394.000 人で古くは 1853 年にペリーが来航した歴史のある街である。特徴として、市域の 6.2%を在日米軍や自衛隊関連施設が占めるなど、戦前から軍港として栄えてきた。また、昔要塞として使用していた行政区域内にある猿島は、近年アニメの舞台となるなど、首都圏から 1 時間の距離ということもあり、観光施設整備に力を入れている。

3.取り組みの概要

(1)議会 ICT

H14 年に策定した議会 IT 化基本計画に基づき、議会 LAN を整備し全議員にノート型パソコンを貸与した。H15 年 9 月から本会議、H20 年 12 月から委員会のインターネット中継を開始。平成 26 年に議会 ICT 化基本計画を策定。H27 年 8 月からスマートフォン・タブレット端末でも対応できるように整備。H30 年からは、議会運営委員会のインターネット中継も行っている。

(2)議会 BCP

H28 年熊本地震を機に検討開始し H30 年に策定。

①本 BCP が対象とする災害時の定義。②議会の役割。③議員の役割。④市議会事務局の役割。⑤災害対策会議の組織及び役割。⑥災害時における議会及び議員の行動。⑦災害発生時における連絡体制。⑧災害時における BCP に基づく対応の 8 項目からなる。

(3)議会基本条例（H27・5・23）

市民により開かれ、信頼される議会を目指して議員個々が自覚と見識を持って市民の負託に応える決意を示すために制定された。

4.所感

それぞれの事業に対し先進地である横須賀市の取り組みを参考に、本市のこれらの整備に向け、細部にわたり参考に市取り入れるべき内容が多く、充実した視察であった。

視察研修先・神奈川県茅ヶ崎市

視察研修項目・パーク PFI について

報告者・長谷 文子

議員個々の考察と見解

1.視察のねらい

H29 年に都市公園法が改正され、都市公園における民間資金の活用が可能となりました。これまで、都市公園における官民連携については、公園内での飲食物の販売などについては古くからありましたが、本市の公園利用においても民間活力の導入は有意義と考え、早い時期から検討を始めている茅ヶ崎市のスポーツ公園での実施状況について研修することにした。

2.事業取り組みの背景

茅ヶ崎市では、以前から「相模川河畔スポーツ公園」を「柳島スポーツ公園」へ移転・整備する計画があり、整備に当たっては民間のノウハウを活用して「柳島スポーツ公園 PFI 事業」として、H25 年 12 月から着手した。神奈川県内での PFI 導入事業実績は 38 件（H28 年 11 月現在）と、他県と比較すると成功事例が多く、県内の比較的規模の小さな町でも取り組み実績がある。

3.茅ヶ崎市の取り組みの概要

この事業は H21 年 5 月に基本計画を策定後、H26 年 9 月に地元企業を代表としたグループが落札。H26 年 12 月議会議決を経て、市と「茅ヶ崎スマートウエルネスパーク K.K」との間で事業契約を締結。契約金額;約 74 億 8.500 万円で、事業期間全体を通じた財政負担の削減額は 3 億 800 万円である。

施設面積は約 6.5ha で、メインスタンド棟、クラブハウス棟、競技運営棟、テニスコート、ジョギングコース、多目的広場、駐車場で構成されている。

4. 事業の目的

「スポーツを通じて茅ヶ崎市民の健康増進を担う」という理念を掲げ、

- ①「きっかけをつくる」「気軽に楽しく集う（多世代の交流）」
- ②「食から取り組む（食の情報交換・啓発の場の設置）」
- ③「茅ヶ崎の観光交流につなげる（新たな茅ヶ崎レジャー拠点として地域文化を発信）」
- ④「ローカルファーストを推進する（地域に根ざしたレジャー・スポーツ施設の創造）」

を方針としている。

5. 所感

PFI を導入したスポーツ施設は収益性が低いですが、各地で運動関連施設の一斉の老朽化に伴い、使いやすく利用者が増える施設の整備のために、市民の健康増進につなげることも目的に、民間のノウハウを生かした施設整備が進められ、まちの課題解決にも寄与しているようです。恵庭市においても、取り入れるべき点が多く、今回の視察を本市のまちづくりに生かして行きたいと思えます。

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・「健康都市やまと」の取り組みについて
報告者・長谷 文子
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>1.視察のねらい</p> <p>高齢化が進む中、健康寿命を延ばし高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりへの取り組みが進められている。大和市では、市民の意識改革が大切であることから、2009年2月に「健康都市やまと」宣言し、2018年4月には「70歳代を高齢者と言わない都市」宣言をした。2019年からスタートする総合計画を「健康都市やまと総合計画」とし、「人」「まち」「社会」の3つが健康であれば理想的な都市になるとの考えから、計画の中の1,000の事業のすべてがこの3つに属し、それぞれの所管の職員がそれぞれの事業はどこの健康に入るかを意識しながら日々の業務に励んでいる。大和市の取り組みを研修することにした。</p> <p>2.大和市の概要</p> <p>大和市は都心から約40km圏内、神奈川県中央に位置する人口約236,000人(微増傾向)、のまちで、今年市政施行60周年を迎えた。市内には、私鉄3路線8駅、東名高速道路、国道16号・246号があり、コミュニティバスが市内くまなく運航しているため、交通の便が良く、また市内には駅が多くあるため住みやすいまちである。</p> <p>3.「健康都市やまと総合計画」の主な事業について、</p> <p>①子どもを生き育てやすい環境づくり</p> <p>不妊治療費や妊婦健康診査費助成、さらに、第3子以降の出産費助成など、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援により、保育所等・学童クラブ待機児童0を4年続けて達成した。合計特殊出生率は5年間の平均県内第1位である。</p> <p>②学校図書館の取り組み</p> <p>生きていくためには智恵が必要で、智恵をつけるためには読書が重要との考えから、学校図書館整備に取り組んでいる。</p> <p>③いつまでも健康に過ごす取り組み</p> <p>健康づくり推進課に「歩こう担当」設置、歩くことを通した健康づくりを推進(低栄養予防に着目し、低栄養と診断されたが関心のない人を個別訪問)。国民一人当たりの医療費5年間の平均は県内19市中で最少額である。</p> <p>④高齢者が安心して暮らせるまちづくり</p> <p>一人暮らしにスポットを当てた施策の充実を図っている。</p> <p>4.所感</p> <p>恵庭市でも高齢化の問題は顕著になっていく中で、子育て関連と、一人暮らしに特化した高齢者施策に非常に興味を持ち、本市でもすぐに取り入れられるものは取り入れていくよう尽力したい。</p>

視察研修先・神奈川県横須賀市
視察研修項目・議会 ICT・議会 BCT・議会基本条例について
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>横須賀市は三浦半島の東側、東京湾に面した自治体で、広さは恵庭市の約 1/3、人口は現在やや減少傾向にあり 40 万人弱、議員定数は 40 名です。米海軍やカレーで有名ですが、無人島を含む歴史的な景観が映画や漫画のモデルにもなった見どころの多いまちです。私鉄の京浜急行横須賀中央駅から続く商店街のごく近くに市役所はありません。周辺は工事中のところが目立ちましたが、市役所庁舎の向かい側にあるピロティーのような広場に設けられた屋外喫煙所で様々な用で通りがかった人が足を止めて喫煙している様子が印象的でした。</p> <p>ここでの視察では、議会 ICT・議会 BCP・議会基本条例について伺いました。いずれも、現在恵庭市でホットなキーワードたちです。</p> <p>議会 ICT については、議会改革の一環として平成 14 年から IT 化基本計画が策定され、議会 LAN を取り入れ、本会議と委員会のインターネット中継が始まったそうです。全議員へノートパソコンを貸与し、全議員のメールアドレスが住所電話番号と同等の扱いで公開されるようになりました。現在は 3 年前より議会改革第 2 ステージと題してさらに発展し、議会中継には視聴者数増加を図るため、YouTube 等の配信サイトの検討や、SNS 活用の検討、全議員貸与のパソコンは持出し不可とし、グループウェアの利用と電子証明書により他の場所からは他の端末から利用可能、さらに議会内サーバでデータの共有が図られるようになったそうです。庁舎内の議会のフロアには無線アクセスポイントが設けられ、フロア内のどこからでもネットワークにつながります。これにより、議員の利便性向上はもとより、紙資源の節約、通信経費削減、職員の負担軽減の効果があるほか、市民へ向けての情報発信もしやすくなったそうです。恵庭市で今後応用できる部分、可能性を感じました。</p> <p>議会 BCP については、平成 28 年の熊本地震をきっかけに本格的に計画・策定されたそうです。議会基本条例の改正、議会委員会規則の改正、災害対策会議運営要綱の制定を経て、災害時 BCP(業務継続計画)が策定されました。震度 6 以上の地震・大雨事故災害等による市内全域での大規模災害または甚大な局地的災害の発生または発生のおそれ、大規模な原子力災害の発生または発生のおそれを対象とし、議会・議員・事務局・災害対策会議組織のそれぞれの役割を多角的な視点から計画し、それぞれの行動指針がまとめられています。情報の伝達手段の検討が印象的でした。様々な伝達手段の訓練が行われており、新しい方法を試していました。メールや伝言ダイヤルから、SNS の LINE WORKS も試しておりそれぞれの特徴を確認し、検討が進められていました。</p> <p>議会基本条例は平成 21 年 2 月より検討委員会を設置、翌 22 年 6 月に制定されました。その後 5 回の改正を繰り返し、現在の条例になったそうです。この条例では、議会・議員の活動原則、市民と議会・議会と市長の関係や、議会の機能、議員の身分な</p>

どが明文化されています。特徴的なのは、議会報告会の開催で、市民ワークショップや高校生議会などを催し、市民へ議会の理解を促す取り組みが盛り込まれていたり、通年議会の導入が図られていたりしているところでした。

横須賀市は、ICT への取り組みが先進していたことにより、その他の取り組みにもその考え方が応用されて、議会改革がどんどん進められているように思いました。

視察研修先・神奈川県茅ヶ崎市
視察研修項目・事業について
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>茅ヶ崎市といえばサザンオールスターズと烏帽子岩で有名な湘南、相模湾に面していて、江ノ島がある藤沢市の西側にある自治体です。面積は約35.7km²で、人口は24万人強です。市役所は非常に新しく様々な近代的システムを備えた本庁舎と分庁舎の2棟になっていました。今回の視察では柳島スポーツ公園整備事業について伺いました。平成21年の基本構想から約9年かけて、計画・建設し昨年3月に開園した、真新しいスポーツパークの現地視察もさせていただきました。近くに防砂林が見える、海岸の近くでした。PFI事業のBTO方式、混合型ということで、地域主導型PFI事業を推進する茅ヶ崎スマートウェルネスパーク(株)が、設計・建設し、市に所有権を移転後に指定管理者となり維持管理、20年間の運営を行うとのことでした。この特別目的会社(SPC)はサッカーで有名な湘南ベルマーレスポーツクラブが構成企業に名を連ねており、テニスプレイヤーの杉山愛さんがおられるパームインターナショナル湘南も協力企業の一つでした。このような一流のスポーツの専門家の方々の意見を取り入れたこの施設にはなるほどと感心する工夫がいくつもなされていました。高速道路の出入り口を意識した、車や歩行者の動線・景観に考慮したゾーニング、雨天だったため見えませんでした。富士山を望むビュースポットには周辺の観光にも配慮されていました。訪れる人々の多様なニーズにこたえる工夫はクラブハウスにも多々ありました。特に印象に残ったのは、フレキシブルなロッカールームでした。開催されるスポーツイベントによって男女の構成比が異なる場合に対応できるシステムでした。また、1階と2階の建築資材が異なっており、継ぎ足しや削除が可能な部分を設け、将来のこの施設に関する様々な変化に対応できるようになっているうえ、現在の使用状況には見た目も使い勝手もオシャレ感があり、好感の持てる施設となっております。</p> <p>平日で雨天でも多くの方が屋外の陸上トラック内でトレーニングしている姿が見え、気候風土人口密度などの条件もありますが、誰もが来たくなる魅力ある施設運営がなされているのであろうと、感心したところであります。</p>

視察研修先・神奈川県大和市
視察研修項目・健康都市やまとについて
報告者・石井美季
<p>＊議員個々の考察と見解＊</p> <p>大和市の特徴はまず地理的条件です。神奈川県ほぼ中央の内陸側、東西約 3 km、南北約 9 km で細長く平坦、南北には小田急江ノ島線が走り、南側には江ノ島有する藤沢市、東側に横浜市、北東側には東京都町田市が接してあります。相模鉄道と東急田園都市線と合わせて 8 駅があり、鉄道 1 km 圏内(徒歩 15 分)人口カバー率 80% を誇ります。鉄道以外にも、民間バス、コミュニティバスが市内をくまなく走り、様々な市の機能がコンパクトに集まっており、日本一コンビニエンスな自治体だそうです。緩やかに人口増加が続いているのは恵庭も同様ですが、その数は約 24 万人で、人口密度は横浜を上回り、川崎市に次いで県内で 2 番めに高いまちとなっています。</p> <p>その大和市が『健康都市やまと宣言』を打ち出したのは 2009 年 2 月でした。健康都市大和として将来都市像を「人の健康(フィジカルな)」「まちの健康(公園などのインフラや防災防犯)」「社会の健康(文化・スポーツ・生涯学習)」の 3 つの領域で考え、都市計画を進めてきたそうです。</p> <p>「健康」というと、フィジカル面とスポーツに目が行きがちですが、その視点をググッと広げたところに大きな特徴と、昨年「70 歳代を高齢者といわない都市 やまと」宣言を発表するに至ったゆえんがあるように思いました。</p> <p>まずは子どもを持ちたいと思った時から妊娠出産子育て期にわたる切れ目ない支援に力を注いだポイントがあります。中学校卒業までの小児医療費助成や、親子 de 健康診査などの特徴あるサービスで、首都圏では低下が深刻な合計特殊出生率において 1.4 をキープし、県内 19 市中第 1 位だそうです。また、学校においては第 3 子以降の給食費助成や、中学校全学年の希望者全員に放課後学習支援を行ったり、小学 5 年生から中学 3 年生までの全教室に新聞を配架したり、いじめ防止の観点から男子トイレの個室化したりと、大胆な施策が印象的でした。</p> <p>文化創造拠点シリウスや、市民活動拠点ベテルギウス、市民交流拠点ポラリスなど、特色ある、用途を欲張りすぎない施設の活用は、これからの恵庭市で応用して考えていただきたいと思いました。</p> <p>フィジカルな健康増進事業としては、高齢者の低栄養による体力低下の予防のために、アンケートの回答によって選んだ対象者の家庭を訪問するなどといった、攻めの窓口対応に特徴があります。</p> <p>そうして、3 つの健康というキーワードで取り組んだことによりまち全体が生き生きして、住みよさが認められ、人口増の継続になっていることは、恵庭市においても大変参考になることと思いました。</p>